

最近の韓国・中国・台湾経済情勢について

【今週のチェック・ワード】

【価値観について】

最近は、世界的に見て、

「価値観の見直し」

がとみに必要な時代となっているのではないかと私は思います。

私の大切にしている信条として「薬師寺の元管長でいらっしゃった高田好胤先生」から直接ご指導を戴いた、

「最小の効果を上げる為に最大の努力を惜しまぬ人間たれ！」

と言うものが御座います。

長い間、「国際金融社会」で仕事をして参りますと、

「少しの労力で多くの利益を得よ。リスクを極小化して、利益を極大化せよ。それこそが効率性の向上である。」

とよく言われてきましたので、正に、高田元管長のご指導は、こうしたビジネスの世界の考え方の、「対極」のような考え方であり、これは、「価値観そのもの」を変えていかないと、自身の中で、「内部矛盾」すら起こしかねない、考え方の違いであります。

こうしたなか、先日、朝日新聞を拝見しておりましたら、

「幸福指数」

こそが大切と国際社会に訴えている国・「ブータン」の経済大臣のインタビュー記事に接しました。

ここで、少し、その記事を引用させていただきます。

引用はじめ

「ヒマラヤ山脈のふもとにあり「幸せの国」として知られるブータン王国のノルブ・ワンチュク経済相が、東京都内で朝日新聞のインタビューに応じた。

ブータン経済の成長が期待されている再生可能エネルギーなどの分野で、日本企業の投資を呼び込みたいと話した。

今年は、日本とブータンが国交を樹立して30年だ。

九州ほどの国土に人口75万人というブータンは、国民総幸福（GNH）という考え方を国是とし、経済成長よりも国民の幸福度を重視してきた。

医療と教育はすべて無料だ。

ワンチュク氏は「こうした社会福祉を持続的に提供し、国民全員が幸せであるためには、やはり経済が成長しないといけない」。

エネルギー分野の伸びしろが大きく、特に水力発電が経済を大きく成長させていると言う。

また、観光産業や国民の6割以上が従事している農業分野でも、投資の可能性を秘めていると強調し、「日本の優れた技術や蓄積された専門性、ものづくりに対する姿勢など学ぶものは多い。ブータン人も日本が大好き。一緒になってユニークな製品を作り出して輸出したいと話した。」

引用終わり

如何でしょうか？

「国民の幸せを第一に考える」

これは、言うは易く、行うは難いと思います。

更に日本のような先進国で国民に多様な価値観があるところでは、そもそも、

「国民の幸せとは何か？」

を定義することも容易ではありません。

しかし、最近の日本には余裕がなくなり、経済的余力の減少から人の心も荒び、それによる、「おもてなしの心、丹精込めた仕事振りなどの欠如による、日本人らしからぬトラブルや事故」も発生しているのではないのでしょうか？

価値観を全面的に変えねばならぬ、などとは私は申しません。

人は生きていかなければならず、そうした視点から言えば、厳しい経済環境にあつて、「現実との折り合いをつけながら生きる。」

ということが大切となりましょう。

従って、価値観を全面的に変えていくことは出来ないと思います。

しかし、日本の政治には、憲法に掲げられている、

「基本的人権の尊重に基づく、最低限の生活保障」

があり、これを先ず、「国民の幸せ」と捉え、その実現に向けた努力を国家全体で担っていけないと、日本の良さ、日本らしさそのものも更に薄まってしまわないかと私は懸念致しております。

皆様方は、如何、お考えになられますか？

【台湾・中国・その他】

—今週の台湾・中国—

[台湾]

台湾政府・国防部は、中国本土の国営中央テレビが、

「中国本土軍が中国本土東南部の沿岸で大規模な上陸演習を行った。」

とする内容のニュース放送について、

「昨年行われた各種の演習の映像を組み合わせたものであり、これは本物の訓練ではなく、事実ではない。」

との見方を当初示していた。

そして、その真偽はいずれにしても、

「中国本土政府が、民主進歩党の蔡氏が総統選挙に勝利した上に、議会でも民主進歩党が勝利したことを受けて、台湾の新政権と議会に対する圧力をかけているのである。」

との見方も示している。

中台関係は微妙な関係になる可能性はあり、今後の動向をフォローしたい。

[中国]

中国本土の中央銀行である中国人民銀行は、定例公開市場操作で短期金融市場に計4千億人民元の資金を供給したと発表している。

1日あたりの供給規模としては、2013年2月以来、約3年ぶりの大きさとなっている。

こうした動きを見ている、中国本土の金融当局は、今後、更に本格的な景気テコ入れ策を取っ

てくると見ておきたい。

更にまた、中国本土政府は、今後、更に金利を引き下げると一層人民元安が進むとの懸念から、資金供給を拡大しての景気刺激策を中国本土政府が打ってきているのではないかとも見られている。

今後の動向をフォローしたい。

—今週のニュース項目（見出し）—

1. **ラオス情勢について**
2. **中国本土、イラン関係について**
3. **対中投資について**
4. **マレーシア情勢について**
5. **インド情勢について**

—今週のニュース—

1. **ラオス情勢について**

ラオス国営パテト・ラオ通信は、国際社会からは、ラオスの社会主義、かつ事実上の独裁政党となっているとも言われている、「ラオス人民革命党の第10回党大会」についてコメントしているが、この中で、

「ブンニャン国家副主席を党最高ポストの書記長に選出して閉幕した。」

と報道している。

ラオスの政権運営に大きな変更はないと見られている。

しかし、中国本土の経済的影響力の拡大の中、ラオス経済はより、中国本土経済に依存していく可能性があり、これがラオスの政治運営に影響を与える可能性がある点、留意しておきたい。

2. **中国本土、イラン関係について**

中国本土はグローバルな覇権を意識し、アフリカ諸国に対してと同様に中東諸国に対しても経済外交を積極的に展開している。

こうした中、サウジアラビアとエジプトに続いてイランを訪問した中国本土の習近平国家主席は、イランの首都テヘランでロウハニ大統領と会談した。

そして、イランの国営プレスTVによると、中国本土がイラン国内で高速鉄道を整備することなどを含む、経済や産業、司法など多分野での協力に関する合意文書を取り交わしている。

中国本土は、一気に中東へのコミットメントを強めようとしていると見ておきたい。

3. **対中投資について**

中国本土政府・商務部は、

「昨年2015年12月の外国人の対中直接投資額は8.2%減の122億3,000万米ドルとなった。

一方、2015年通年の世界全体から中国本土への直接投資の実行額（申請基準ではない点、注意）は、前年対比5.6%増の1,262億7,000万米ドルとプラスを維持した。」と発表している。

こうしたデータを見ると、世界の対中投資は、

- * 中国本土経済が減速感を示していること。
- * 中国本土の国際展開を見ても中国本土政府の様々な政策運営に対する不信感や不安感が高まっていること。

などを背景として、外資が警戒感を示している結果、「鈍化トレンドに入っている。」

と見ておきたい。

尚、日本からの2015年通年の対中投資額は25.2%減の32億1,000万米ドルと3年連続で減少している。

当面、対中投資の波は一段落していくと見ておきたい。

4. マレーシア情勢について

人数は少ないもののイスラム原理主義的な勢力がいるとされ、また、そうした勢力がタイ南部にまで影響力を拡大しているのではないかと見られるマレーシアに於いて、マレーシア警察当局は、国内の複数の場所でテロを計画していたとして、イスラム過激派組織「イスラム国」の支持者とみられる26～50歳の男7人を拘束したと発表している。

今後の動向をフォローしたい。

5. インド情勢について

インドのモディ首相は、首都ニューデリーでフランスのオランド大統領と会談、インドがフランスのラファール戦闘機36機を購入することで原則合意している。

更に、インド西部ジャイタプールで原発6基を建設する計画や対テロ分野でも両国の協力で合意したとされている。

中国本土を対象に経済外交戦略を比較的積極的に展開しているフランスに対して、インドがアプローチすることによって、欧州との関係強化を図ると共に、中国本土に対する一種の「牽制」も行っていると思われる。

今後の動向をフォローしたい。

【 韓 国 】

—今週の韓国—

韓国政府・統計庁は、

「韓国の製造業の在庫率指数は2010年以降急速に上昇し、昨年8月には129.6を記録した。」

と発表している。

即ち、世界的な金融危機のピークだった2008年12月の129.9以来の高水準に達し、その後、昨年9～11月も120台後半で推移している。

この韓国の在庫率の上昇は、世界的な需要減少で輸出が低迷していることが原因と見られている。今後の動向をフォローしたい。

—今週のニュース項目（見出し）—

1. 米韓関係について

2. 三星電子、研究開発について
3. LG電子、中国本土ビジネスについて
4. 2015年出入国者数について
5. 現代自動車、インドビジネスについて
6. 北朝鮮問題について
7. 消費者動向について
8. 中国人観光客訪韓数について

—今週のニュース—

1. 米韓関係について

韓国政府は、北朝鮮の弾道ミサイル攻撃に備えて、米軍と情報共有システムの運用を今年中に始める方針を固める意向であるとコメントしている。

こうしたことから、日米によるアジア地域でのミサイル防衛（MD）体制へ韓国が事実上の参加してくるのではないかとの見方が出ている。

この米国のMDに韓国が参加するということについては、韓国側がその態度をはっきり示してこなかったが、昨今の北朝鮮の状況や、米国の韓国に対するアプローチや圧力の中で、韓国が米国寄りの姿勢を示すことになったのではないかと見られている。

いずれにしても、こうした状況に対して、中国本土が反発することは必至と見られる。

米国の逆襲、韓国取り戻し作戦が進み始めていると見ておきたい。

2. 三星電子、研究開発について

韓国の主要企業の一つである三星電子は昨年、半導体の研究・開発（R&D）に31億2,500万米ドル投資している。

これは、この業界では、世界で3番目に大きい投資額となっている。

尚、市場調査会社の米国ICインサイツが集計した企業別の半導体R&D支出によると、昨年支出額が最も大きかったのは米国のインテルで121億米ドル、次いで米クアルコムが37億米ドルであった。

三星電子のR&D支出額は前年に比べて約5%増えたが、クアルコムに及ばなかった。

今後の動向をフォローしたい。

3. LG電子、中国本土ビジネスについて

韓国の主要企業の一つであるLG電子は、中国本土の自動車大手メーカーである第一汽車（一汽）に電気自動車（EV）用のバッテリーパック、インバーター、ドライバーユニット（モーターなど駆動装置を指すとされている）などの重要部品を供給する契約を締結したと発表している。

一汽は昨年270万台を販売、中国本土4大自動車メーカーの一つとされている。

これにより、LG電子は中国本土自動車メーカーの東風汽車、吉利汽車に続き、一汽にも部品を供給することになったことになる。（但し、具体的な納品規模は明らかにされていない。）

尚、中国本土政府は、EV購入時に補助金を支給するなど、大気汚染防止に向け、EVの市場拡大に積極的に取り組んでおり、そうしたことから見ても、今回の契約締結はLG電子にとっては、中国本土ビジネス拡大の可能性を示すものである。

今後の動向をフォローしたい。

4. 2015年出入国者数について

韓国政府・法務部は、

「2015年の韓国の出入国者数は前年対比7.7%増の6,637万2,908人と過去最多を記録した。」

と発表している。

また、このうち韓国人は3,911万1,816人、外国人は2,726万1,092人となっている。

今後の動向をフォローしたい。

5. 現代自動車、インドビジネスについて

インド自動車工業会は、

「韓国の現代自動車は昨年、インド国内市場で前年対比15.7%増の47万6,001台を販売し、過去最高を更新した。」

と発表している。

現代自動車の昨年の欧州市場での販売台数（47万130台）を上回ったことになる。

現代自動車の欧州販売台数も前年対比10.9%増加し、過去最高を記録したが、インド販売台数には及ばなかったということである。

今後の動向をフォローしたい。

6. 北朝鮮問題について

年始から核実験を行うなど、不穏な動きを示す北朝鮮の動向などを背景に、日米韓の連携強化が改めて進められるかもしれない。

また、中国本土の地域における影響力拡大を意識すると、米国は、改めて、日韓の関係改善を図りつつ、日米韓連携を再構築し、北朝鮮はもとより、中国本土をも意識した日米韓連携を再強化させてくる動きを示す可能性がある。

こうした中、今般、韓国政府・国防部の報道官は、定例記者会見で、

「日米韓3カ国が防衛当局の制服組トップの会談を2月に行う方向で調整している。」

とコメントしている。

今後の動向をフォローしたい。

7. 消費者動向について

中央銀行である韓国銀行が発表した本年1月の消費者動向調査の結果によると、経済状況に対する消費者の心理を総合的に示す消費者心理指数（CCSI）は100で、前月から2ポイント低下している。

これにより、中東呼吸器症候群（MERS）コロナウイルスの感染拡大が影響した昨年7月（100）以来の低水準となっている。

中国本土経済の成長鈍化などによる国際ビジネス環境の悪化が微妙に韓国経済の消費者心理にも悪影響を与えているものと見られる。

引き続き動向をフォローしたい。

8. 中国人観光客訪韓数について

韓国の主要紙である朝鮮日報は、

「昨年2015年の中国人観光客の増加率で日本が韓国を上回ったことが韓国観光公社と日本政府観光局（JNTO）が発表した資料で分かった。」

と報道している。

そして、昨年日本を訪れた中国人観光客数は499万4,000人で過去最高を記録し、日本に向かう中国人観光客が増加したことにより、韓国の観光業は打撃を受けて、昨年、韓国を訪問した中国人観光客数は598万4,000人で前年対比2.3%減少したとコメントしている。

中国本土に依存すればするほど、

「中国本土経済に頼らないとーー」

とする強迫観念にも似た雰囲気韓国社会を覆う。

今後の動向をフォローしたい。

〔トピックス〕

年初に北朝鮮は核実験を実施しました。

その北朝鮮は、その外交面でのこれまでの行動を見ると、「したたかな国」ではないでしょうか？経済力も限定的、産業技術力も際立ったものがない、しかし、国際社会に於いては、したたかに、「自己主張」をして、「国家として逞しく存続する。」といった姿勢を保ってきています。

その際たる現象が「北朝鮮は核兵器保有国家となっている。」ということにも見られましょうか。

そして、このような北朝鮮の、「核兵器を用いた外交戦略は更に巧みになっている。」との指摘もあります。

例えば、

「北朝鮮が潜水艦からのミサイル打ち上げに続き、幾つかの弾道ミサイルの発射実験に成功したとのニュースが流れる。

すると、専門家は打ち上げ写真の信憑性に疑問があると報じたと伝え、こうした話は北朝鮮が西側諸国と長く演じてきたお馴染みの戦術だとコメントする。」

と北朝鮮の言動は単なる脅しであると言った反応を国際社会はすぐに示します。

しかし、北朝鮮は、核拡散の防止を願う西側諸国と数々の合意や協定を結んできたがものの、これまでのところ北朝鮮の25年間に及ぶ軍事的拡張を西側諸国は、結局は止められず、米国も失敗の歴史を積み上げてきているのであります。

1989年に始まった北朝鮮の核開発疑惑と1992年の核査察の実施を経て成立した最初の1994年の米朝合意と北朝鮮がその合意を守らず破綻しました。

その後、2003年に米国は中国本土が斡旋した6か国協議に参加するものの、協議は断続的続いただけで何の進展もないまま2009年に放棄され、更に2012年に北朝鮮は食糧援助と見返りに、核とミサイル計画のモラトリアムを受け入れますが、16日後には衛星打ち上げの名目で弾道ミサイルを打ち上げています。

そして、北朝鮮は過去25年間にわたって西側を出し抜く鉄壁の手だてとして、先ず、食糧やエネルギー支援を求めるため、

- (1) 国際的関心を呼ぶ緊張を生み出す。
- (2) 各国は当初、北朝鮮の状況が単に悪化した、との程度の関心しか払わない。
- (3) このため北朝鮮は過激な言葉や行動を通じて緊張をさらに高める。

- (4) その結果、世界は解決策についての討議を受け入れる。
- (5) そこで北朝鮮は核ミサイル計画の停止受け入れに合意し、見返りとして食料、エネルギーなど必要物資を受け取る。
- (6) まもなく北朝鮮は、そのコミットメント破棄を正当化する方策を探し出すか、考え出す。
- (7) そしてその後はこうした動きを繰り返す。

ことをしたたかに続けてきたと言う見方が西側諸国の分析を見ているとともに明らかにあるのです。

更に、核ミサイル問題の解決が長引くなか、北朝鮮は韓国首都ソウルを標的として、非武装地帯に沿って伝統的な兵器を大量に配備した、この結果、米韓が北朝鮮の核基地に対する先制攻撃を行った場合、北朝鮮によるソウルその他の都市に対する攻撃が危惧され、現在では、「結果的には米韓が北朝鮮に対して軍事的先制攻撃が事実上出来なくなっている。」

とし、米韓は、北朝鮮との間では、もはや、

「対話による解決策」

を模索する以外に究極の手立てはないとまで言われているのであります。

アジアの異端児、北朝鮮の動きが今後も注目されます。

[今週の“街角のお話”シリーズ]

このレポートで時々登場戴く、我が慶應野球部のグッドライバル早稲田大学の野球部エースとして活躍、その後、巨人と中日、そして楽天と選手として、コーチとして活躍された仁村薫さんと久しぶりでゆっくりとお話しました。

弟さんの仁村徹さんは現在、楽天のヘッドコーチとして今年から楽天の指揮を執る梨田監督の名参謀として活躍されていますが、薫さんは現在、プロ野球の世界から少し離れてご実家のある埼玉県川越で活躍されています。

私は、その仁村さんとお話しする度に感じるのですが、彼はプロ野球という華々しい世界で活躍した実績や経験がありながら、否、そうした経験があるからこそ、

「誠実に謙虚に前を向いて、お天道様と向き合いながら、頑張っている。」

と感じます。

そして、彼自身は、自らの天性を、

「人のお役に立つために働くこと。」

と信じて、

「今すべきこと。」

を意識しながら、それを粛々と準備し、それ着々となし、現実化させていると感じます。

今回は、そうした中、仁村さんの最近の様子をお聞きしました。

差し障りがあるかもしれませんが、詳細は語りませんが、仁村さんは、

「私はスポーツを通して、健全なる肉体に健全なる精神が宿るような元気の良い子供たちを育てたい。」

と仰います。

ただ単に、オリンピックやプロ野球で活躍する選手を作る以前に、

「素敵な人」

を育てたいということなのです。

そして、スポーツを通して、とすることになれば、

「まずは怪我をせず、スポーツを楽しみながら、身体を鍛え、そして、強く優しい心を育むことが

大切である。

「従って、怪我をしないような身体づくりのためのトレーニングを広めていきたい。」と熱く語られます。

こうした思いをお天道様が見ていたのでありましょう。

ご縁のあるプロ野球の仲間の方が親しくされている企業経営者の方が、「企業の社会貢献」を強く意識、また、会社のある地元にご縁返しをしたいとしたいとの思いから、仁村さんに対して、「プールを使い、水の中での怪我をしないような身体作りをするプログラムを推進して、地域のために貢献して欲しい。」と仰ってきたそうなのです。

仁村さんはもちろん、それを引き受けられると共に、「それでは、そうしたお子さんたちのトレーニングだけではなく、そこに一緒に来られるご両親たちには栄養学や身体構造の基本などもお話したい。」と更に夢を膨らませて、「頑張りたい。」と仰っていました。

崇高なる目標を持ち、気合を以って粛々とそれを進める、さすれば、そこにお天道様のご縁を下さる（かもしれない）と信じて、私も、「もっと頑張るぞ！！」と仁村さんとお話していて、強く感じました。

[英語で一言]

ここでは、英語を母国語としない私が英語を母国語としない多くの人々にも伝わるように、短文、平易な英単語を使って、気になる言葉、出来事を、短歌のように数行で示していくことを毎週トライするものであります。

またまた拙いコーナーの開始ですが、お付き合いください。

Austria=オーストリア

首都をウィーンに持つオーストリアと言う国は、83,856平方キロメートルの周囲を他国に囲まれた小国であります。

その周りにはチェコ、スロバキア、スイス、ドイツ、イタリアなどの国々があります。

私は、このオーストリアと言う国は、スイスと同様、ヨーロッパの象徴的で理想郷とも言える国であると考えています。

オーストリアは小国でありながらも、どうやら何とか食糧自給が適う国のようであります。

そして、それをベースとして、一般機械、輸送機械、電気製品、繊維・衣料などを主たる輸出品として外貨を稼ぐ国家であります。

ハプスブルグ帝国の中心となったこともあるこのオーストリアは1938年にナチスドイツに侵略されますが、1945年には再び自由を勝ち取り、共和制を取り戻します。

人口は万人、その約8割がカトリック教徒であります。

Austria=

Austria (Capital: Vienna) is a landlocked state in central Europe with an area of 83,856 sq km. It is bordered by Czech, Slovakia, Italy, Switzerland, Germany and so on. I believe Austria is one of the symbolic and utopian countries in Europe.

Austria is self-sufficient in foodstuffs.

Austria exports machinery, transport equipment, electrical goods, clothing and textiles.

Once the center of the Habsbrug Empire, Austria was annexed by Nazi Germany in 1938 but regained its freedom in 1945, when a republic was re-established.

The population of Austria is million and about 80% Roman Catholic.

〔主要経済指標〕

1. 対米ドル為替相場

韓国：1米ドル／1, 202.09 (前週対比－4.06)

台湾：1米ドル／33.54ニュー台湾ドル (前週対比－0.04)

日本：1米ドル／118.24 (前週対比－0.17)

中国本土：1米ドル／6.5797人民元 (前週対比－0.0016)

2. 株式動向

韓国 (ソウル総合指数)：1, 897.87 (前週対比＋18.44)

台湾 (台北加権指数)：7, 849.83 (前週対比93.65)

日本 (日経平均指数)：17, 163.92 (前週対比＋205.39)

中国本土 (上海B)：2, 749.785 (前週対比－166.777)

以上

草の根の辻説法師を目指す

真田幸光